
からチート能力を貰ったキモヲタのヒキニートがねぎまの世界に転生して原作レイブ』の時間

猫村

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

みんな大好き、『神様からチート能力を貰ったキモヲタのヒキニートがねぎまの世界に転生して原作レイプ』の時間がはっじまっつるよー

【Nコード】

N3665M

【作者名】

猫村

【あらすじ】

タイトル通りのお話です。

(前書き)

私やキライだがな。

俺の名前は『藤之宮 朱雀』。17歳。表向きはどこにでもいる普通の高校生だが、その正体は特務機関《輝ける銀の暴風》のSSラックエージェントである。

「……いきなり初っ端からウソこいてんじゃねーよ。オメーの名前は『山田卓夫』。三十路^{みそじ}過ぎてても働かねーどころかバイトの一つもしたことの無え、いまや日本全国津々浦々、どこにでもいるクソヲタのヒキニートだろが」

・・・その声をシカトして俺は続ける。そう俺の名は『龍堂寺 天音』。ついさつき車にはねられそうになった子供を助けようとして、その身代わりになって死んでしまった。

しかし、俺は後悔なぞしていない。こんな俺の命一つで尊い命が救えたのだ。それを思えば

「だからすぐバレるよーなウソをつくなつてんだろ。手前の名前は山田。ついでに言うなら、オメーの死因は『アナルオナニー』しよう和小汚ねえケツにピンクローター入れたらソレが漏電。「ひッひいいいいい」「とかいうキモい悲鳴をあげつつ射○しながらのシヨック死」だろ」

人の恥ずかしい秘密をバラすなよ！

俺は目の前の、『ヒトガタ』としか形容しようの無いナニかに詰め寄り怒鳴った。『ヒトガタ』 なんでも《転生》を司る神様みたいなモンらしいソイツは、肩をすくめたような仕草をした。

「事実なんだからしゃーねーだろ。大体、手前みてえな人生トコト

ン舐めて自堕落に生きてるような、それこそブタのケツからひり出されたクソ風情が『人助けで死ぬ』なんざありえねえし。まあ、んなことあどーでもいいイヤな。準備はもう終わったんだ、さっさと《転生》しちまいな。こちとらとしてもこれ以上、手前なんぞに関わってたくねえ」

おっと、そうだった。こんなコトでキレてる場合じゃなかった。そう思い直した俺は『ヒトガタ』から距離をとる。

「じゃあ、最後にもう一度確認すつけど、オメーの転生先は『ねぎま』の世界でいいんだな。きつと後悔すると思っぜ？」

フツ、この俺に後悔の二文字は無い。そこが例えどれだけの地獄であつたとしても、最後まで走りぬいてやるさ！

そう格好良く決める俺に、『ヒトガタ』は黙りこくつた。フツ、どうやらこの俺のフェロモンに中てられちまったようだな。罪な男だぜ俺ってヤツは。

「・・・呆れてものが言えねえんだよ、アホ。つたく、なんでこの手の脳ミソにウジ湧いたよーなのが、今日日キョウジツやたらと増えてきたんだろうな」

『ヒトガタ』が何か呟いているが、これから先のバラ色どころか真っピンクな未来にむけテイクオフした今の俺には聞こえない。

そりゃそうだ。なんせこれから俺が転生するのはあの『ネギま!』の世界な上に、生前俺が行った善行がかなりの偉業として認定されたので転生後に様々なチート能力をオマケで貰えるようになったのだ。

『ヒトガタ』の説明によれば、なんでも

『オメー、2・3年ばかり前のエロゲー買った帰りに、サラリーマン風の男とぶつかった。実はソレが引き金になって、某国の原発事故が未然に防がれる結果になってな。なんだかんだで五百万人くらいの人間が助かったんよ。まあ、そんなでもなきやー、お前みたいなの先生きていても役に立つ事つつたら、とっととくたばって墓屋と葬儀屋の懐暖めるくらいしか出来そうもねえウストラトンカチの転生先が人間だなんてありえねえ』

とのこと。いい事はするもんだぜ。

「じゃあ、準備は整ったぜー。この《門》をくぐれば晴れて転生完了だ。精々有難いと思いつつ逝ってきな。本来なら手前なんぞは『屠殺場の豚』か、さもなきや『ブローラーの鶏』くらいが関の山なんだからよ」

思い出し笑いをこらえていると、準備を終えた『ヒトガタ』がそう言ってきたので『ヒトガタ』が指差した《門》をくぐる。くけけけけ精々ド派手に話に介入して、原作レイプしてやんよふひひ。

そして俺は『ネギま!』の世界に転生し

一時間も経たないうちに死んだ。

しかもその理由が『水戸黄門とかに出てくる、悪代官にイジめられてそんな百姓』っぽいオッサンに、石を抱かされて近くの沼に沈められるというもの。なんだよそれ意味わからねえ。

「ナニ、お前もつくたばったの？ 早漏にも程あんだろ」

「馬鹿じゃねえの？ 死ぬの？ 死んでんだけど」とかぬかす『ヒトガタ』に、俺はキレた。うるせえ！ なんだよアレ！？ なんで『ネギま！』にあんなのがいんだよ！

「あー？ だって『ねぎま』の時代だぜ。いるに決まってるだろ。ちなみにオメーをぶち殺してくれたヤツってのは『田中村の茂平』っていう、あの世界におけるお前の父親の水飲み百姓でな、殺害の動機は『口減らし』だ。実にありがち」

ありがちじゃねえ！ 『ネギま！』っていったら、『ちよつとエツチなアクションコメディ』だろ！ 江戸時代じゃあるまいしそんなのがいてたまるかよ！

「え、だってお前の生まれ変わり先の『ねぎま』って江戸時代の《^{はなし}噺》じゃん。いるに決まってるだろ」

・・・ちよつと待て、お前一体俺をどこの世界に転生させたって？

「だから『ねぎま』だろ。古典落語の『ねぎまの殿様』」

ばつきやろ ！！ そつちじゃねえ！ 俺が転生したかったのは漫画の方だ！

「世間一般じゃあ落語のほうが有名だろ。なんせ百年単位の歴史があるからな。そもそも俺、漫画読まねーし」

そんなの俺が知るかよ！ やり直しだ！ もっぺん転生させる！

「ああ、そりゃ無理だわ。今のお前の立ち位置ってのは、いわゆる『水子』。どーせ知らねえだろから詳しく説明するとな、ガキの内に死んだやつってのは娑婆と冥土の境目にある『賽の河原』ってトコで『石を積んだり花を添えたり』。っつー苦役を課されんだわ。ちなみに終わるまでは地獄にも極楽にもいけんよ。ましてや生まれ変わるなんて出来っこねーやな」

なんだよそれ。聞いてねえぞ！

「今話したばかりだもんよ。だから言つたる『後悔する』って。ま、オメーみたく生まれてこの方、イイこともワルい事もしてねえが、積極的に何か功德を積むようなことをしたって訳でもねえ野郎の結末としちゃ上出来すぎんだろ」

納得いかねえ！ そりゃ、確かに俺は前世じゃダメだったかもしれないけど、生まれ変わって凄い力があれば何だって出来る、やれば出来る奴なんだぞ！ それなのに

「・・・お前、『すべての男女は《スター星》である』って言葉を知ってる？」

知らねえよ。なんだそれ。

「アレイスター・クロウリー」っていう有名な魔法使いの言葉さ。まったくもってよく言ったもんだ。その通り、この世の悉く、すべてからくの人、眩く輝く《スター星》となる権利と資格を持って生まれてくる」

よくわかんないけど、それって俺もってことだろ。だったら

「全然、“わかつて”ねえだろ。確かに人は誰しも お前だつて《星》になれる。だがそうなるには、人生の中でもあるかないかの数少ないチャンスをもノにするだけの実力と、実力を得る為の努力。更にはチャンスに乗っかるだけの度胸が必要になる。お前の前世で、どれか一つでも当てはまるモノがあつたか？」

.....

「『やれば出来る』？ ホントにやれば出来るヤツつてのは、そんなセリフを言わんだろ。そんな暇があつたら自分を磨いたりするもんだ。『凄い力があれば何でも出来る』？ 何かをしようと大望抱く奴つてのは虎の威を借りたりしねえで、自分の力を頼りにするだろ」

「ついでに言わせてもらうが、人間の《徳》つてのは力じゃなく、その生き様にこそ宿るモンだ。『倉廩くらん満 ちて礼節を知る』とは言うが、満ちてなくとも礼節を知る者はいくらでもない。録でもない人生で希望を捨てない者もまたしかり。寝るにも食うにも困つたことなく、今までの人生で自分の可能性をドブに捨てるばかりのお前にゃー、どんな力があるうと結末は同じ。どうやっても、毎日毎晩穀潰しのクソひりマシーンにしかなれねえよ」

.....

「わかつたけ？ じゃあ、『さよーならー』。お地藏様が助けられるまで、頑張つて石積んでなー」

(後書き)

かっとなつてやっただいまでもはんせいはいしてません。まあ、一時間で書いた話じゃこんなモンか。

つーか、テンプレでよくある『元キモヲタがチートで転生』ってのをやってみようと思ったんですが、どう考えてもこうだった展開しか思いつかなんだ。ファンキーさぶいば大発生。結局はSEKKY
OU! かよ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3665m/>

みんな大好き、『神様からチート能力を貰ったキモヲタのヒキニートがねぎま

2010年10月9日20時23分発行